

この研究会は、インドネシア、ガジャマダ大学人口政策研究センターにて日本に行く研修生やEPAによる介護士・看護師に関する調査研究のヒアリングを行ったミラー教授の紹介により、実現した。お互いに初顔合わせであるため、互いの組織と研究の紹介をすることが主な目的であった。まず、当研究所国際関係部の林部長から、社人研の組織、設立経緯、ミッションについて説明を行った。続いて、日本の人口動向、日本在住外国人人口の動向、近年の国際移動に関する政策の変化、日本在住インドネシア人の人口動向や在留資格の変化に関する概要の説明が行われた。

スカンディ教授からは、ガジャマダ大学の紹介、同大学人口政策研究センターで行っている調査研究や、海外の大学との共同研究に関する説明があった。続いて、インドネシアからの移民は中東諸国に行く傾向が強くなっていること、女性の割合が増えていること、日本に行くインドネシア移民は、マレーシアに行く移民よりも教育レベルが高いこと等のインドネシア移民の特徴、更に日本で直面する言語・文化・宗教上の理由による問題等が提示された。その後、参加者からもインドネシアに戻った人々間のネットワーク、インドネシア政府の移民に対するスタンス、EPAで日本に向かう医療従事者の事前研修の内容、送金の使い道等に関する多くの質問が出され、活発な議論が行われた。

余談になるが、Skypeを使った会議は社人研では初めての試みであった。画像や音声も比較的鮮明であり、内容の録音も可能なので、国外など遠隔地のメンバーがいる研究会の可能性が大きく開かれたと感じた。

(千年よしみ記)

第20回国際老年学会（韓国・ソウル）

第20回国際老年学会（The 20th World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul 2013）が、韓国ソウル特別市にある複合施設 COEX カンファレンスセンターで開催された。期間は6月23日から27日までであり、テーマは「IT化を迎えた高齢社会（デジタルエイジング）：健やかな老いとアクティブエイジングへの新しい展開」であった。学会では、基調講演、シンポジウム、デジタル高齢化特別プログラム、口頭セッション、ポスターセッション等が行われ、韓国をはじめ世界各国からの参加者が活発な議論を行った。当研究所からは、小島克久国際関係部第2室長が“Model Analysis of Long-term care service use among the Elderly living at home - Japan-South Korea comparative analysis-”（口頭セッション）を報告し、韓国国民年金公団が同時に主催した特別シンポジウムでは山本克也社会保障基礎理論研究部第4室長が、A Feasibility Study on the Minimum Guaranteed pension Scheme in Japan を報告した。

なお、本大会は4年に1度行われており、次回は2017年にサンフランシスコ（アメリカ合衆国）で開催される予定である。

(小島克久記)